

## 沖縄・辺野古の闘いに参加して

中出友里子

私が沖縄に行くようになったのは、2015年ダイビングにハマったことがきっかけです。私は保育士をしています。人手が足りずなかなか休めない保育現場ですが、偶然まとまった休みがとれ、人生初の一人旅に。せっかくなので何か形になることをしようと、ダイビングのライセンスを取りに慶良間諸島の渡嘉敷島に行きました。海の綺麗さと島のゆったりした時間に魅了され、その1年間で4度、慶良間諸島へ潜りに行きました。ダイビングをする傍ら、島のいたるところにある戦跡が気になって、巡っていました。そのうちに、沖縄戦で本島上陸する前に、座間味、渡嘉敷、阿嘉などの慶良間諸島に米軍が上陸したこと、最大規模の集団自決があったことなどを知ることになりました。

そして同じ頃、映画「戦場ぬ止どらみ」を観て、頭をぶん殴られた気がしました。私は沖縄に行って何をしていたんだろう？いい部分だけ搾取して、見たくないことには蓋をしていた。そういう自分を突き付けられたように感じました。

ため息が出る美しさで、私をダイビングの虜にした浜は、70余年前には米軍が上陸してきた浜。島のいたるところに戦争の傷跡があり、その傷はまだ癒えずに大地に染み込んでいる。海に沈んでいる。風にのって吹いてくる。そんな感じがするのです。もう前の知らなかった自分には戻れなくなりました。

初めて辺野古に行った時に、20代の私でもしんどい暑さの中、年配の方が抗議の声を上げ続ける。機動隊の威圧的な態度。衝撃でした。また、沖縄戦を経験した方、集団自決で生き残ったという方、戦後基地の中で働いた方など、たくさんの方と出会いました。低空飛行の戦闘機の爆音。具体的に形になって見える“思いやり予算”。自分の目で、耳で、肌で確かめないと、現場でないと、感じられないことがあることを実感しました。ニュースで言っていることは本当なのか。実際にその場に立つと何ともいえない、感じるものがありました。

それから、潜りに行ったら辺野古に座り込むよ

うになりました。高江のヘリパット建設が強行された時は高江にも行ってみました。そのうちに、沖縄でお友だちができ、海上抗議に誘われ、昨年2017年夏からカヌーで辺野古の海に出るようになりました。あれよあれよと言う間にダイビングではなく、基地への抗議のために沖縄へ通うようになってしまいました。



ゲート前の座り込みはバナーを掲げて抗議、見るだけというのもありですし、参加しやすいと思います。カヌーでの抗議は、カヌーに乗れることが前提になってくるので、経験している方の幅はやや狭まると思います。せっかくこのような機会をいただいたので、海上抗議のことを私なりにお伝えします。

こんな比べ方はおかしいかもしれませんが、機動隊より海保の方が優しく、人間的だと感じます。それはある意味、ゲート前の機動隊はそれほど追い詰められていて、著しく人間性を奪われている、ということでもあります。陸と海の大きな違いは、海は物理的に範囲が広く、周りに人がいないことです。カヌーの動きを阻止する時、海保は海に飛び込んで、カヌーを押さえます。こうなると、私と海保の2人になり、そこでしゃべったことは2人以外には知りえません。また、複数名乗っている海保のゴムボート上に拘束されている時も、他のゴムボートが接近していなければ、そこで話していることは他には聞こえません。周りの目が少ないので、「今日は寒いですね」「カヌー漕ぐの結構大変ですよ」「お昼ご飯何食べるんですか」とか、意外と普通の会話が成り立ち、まだ人と人とのコミュニケーションをとる余地があります。自分にも相手にも、思いがあることがお互いにわかります。

もちろん人によって様々ですし、口を利かない

人も、高圧的な態度の人もいます。また、雑談なんてしてられない緊迫した状況の時もあります。こちらも工事を止めることが目的で来ているので、やることはやらせてもらう。海保の方もいざ命令が下れば、圧倒的な力で制圧しにかかってきます。そこはもう、お互いやるときはやる。でも、常に衝突して、いがみ合った雰囲気ではないように私は感じています。

調子に乗ってしゃべらない方がいい。個人情報収集されるかもしれない。と言う人もいます。確かにそうかもしれませんが。そういう思案で話している海保や、もしかしたら策として行われているかもしれませんが。でも、「自分も沖縄の人間だから、いやですよ」と漏らした言葉や、サングラスもマスクも外して話してくれる海保に、心があると、私はどうしても感じてしまうのです。



私は、誰かに命令されて抗議行動をしているわけではありませんし、抗議行動に参加しているからと言って、みんながみんな全く同じ思想、温度ではないはずです。自分なりに思うことがあって、自分なりのやり方で抗議し、基地建設を止めるために行動すればいいと思います。沖縄の現場でしかできないこともあります。逆に現場以外、沖縄以外、できないこともあります。そしてその行動も、派手なことでもなくて、ひっそり学んだり、こっそり署名したりすることでもいいと思います。だから誰でも、今すぐにでもできるのです。

詳しく知っている知識のある人しか沖縄のことを語れない、特別な人しか座り込みや海上抗議はできない、そんな風では運動は広がりません。普通の私が、普通に基地に抗議して、普通に語れる。そういう“普通”を創り出すのは私自身です。

闘う相手は、海保、機動隊、米兵、作業員、警

備員、沖縄防衛局その他、現場にいる人たちではないように思います。この思いは、沖縄に行くほど強くなっていきます。この人たちをこの現場に向かわざるを得なくしている人、この構造を創り出している人、この現場にはいない人。本当に闘うべき相手は誰なのか、何なのか、を見失わないように、目の前のことに向かい合わなくてはいけないと思うのです。

最後に、海保とした会話を紹介します。海保に「なんでわざわざ、こんなところに来るんですか？」と聞かれました。私はこんな風に答えました。「私保育士なんだよね。子どもたちにこんなに無責任で、不誠実なことがあるのを私は知っているのに。見て見ぬふりして、先生ずらして、あの子たちの前に立てないんだよね」海保のお兄ちゃんは何も応えませんでした。これからも私らしく生きていこうと思います。



### 辺野古の闘いは正念場

政府は8月17日にも埋め立てを開始すると言っています。埋め立てが開始されればあの美しい海は回復不可能になります。辺野古現地では、ゲート前連続集中行動として、8月6日から10日(金)、8月16日(木)～18日(土)まで座り込みが呼びかけられています。また、8月11日には県民大会も開かれます。愛知でも、これに連帯をして以下のように行動します。ぜひ参加を！

■8月11日(土) 午後3時半集合  
場所 栄バスターミナル前(噴水南)  
午後4時からデモ